

Project Story



災害発生時 緊急対応業務

現場経験と
災害や事故
行政官としての知見をもとに
の危険から国民の命を守る

消防庁の行政官は、平常時における消防防災業務、そして災害時などにおける緊急対応業務という2つの重要な任務を担っています。ここでは、理系行政官が平常時および有事に、それぞれどのような業務を遂行しているのか、平成28年に発生した熊本地震と平成29年に発生したメキシコ中部地震の事例を交えて紹介します。

消防庁防災情報室課長補佐

鈴木 健志 すずき たけし

Profile

平成18年 入庁 消防庁危険物保安室
平成19年 神戸市消防局消防学校、
神戸市消防局北消防署
平成20年 神戸市消防局警防課
平成21年 消防庁総務課企画係長
平成23年 気象庁総務部企画課危機管理調整係長
平成25年 消防庁予防課設備係長
平成26年 神戸市消防局予防部建築課長
平成27年 消防庁危険物保安室課長補佐
平成29年 現職

熊本地震

対策本部で、被災した地域で、被害軽減のために全力を尽くす

地震の発生日は、消防庁の危機管理センターに参集し、熊本県庁や市役所、県内の消防機関から被害状況などを聞く情報集約を行いました。本震が発生した際には、総理官邸の危機管理センターで、政府対策本部のサポートメンバーとして消防庁と政府間の調整役を担いました。その後、南阿蘇村に派遣され、地元の消防部隊や応援で駆けつけた消防部隊、警察、自衛隊等の活動調整を行ったほか、安倍晋三総理大臣が激励視察する際の受け入れ調整も担当しました。地震発生から約半年後、地元の消防機関の方々から感謝の言葉をいただいたときに、被災地の方々力になれたという喜びと達成感を覚えました。



安倍晋三総理大臣激励視察

メキシコ中部地震

国際緊急援助隊の一員として、より広いフィールドで、災害対応に取り組む

東京消防庁・警視庁・海上保安庁等の救助の精鋭達を中心として構成される国際緊急援助隊の副団長（計画・情報分析担当）として、メキシコに派遣されました。救助サイトの状況の事前調査、メキシコ政府と各国救助チームの調整会議への出席、救助サイトにおけるメキシコ政府や他国救助チームとの活動調整等を行いました。日本との大きな時差、雨季のスコール、標高2,000m超の高地といった過酷な環境条件でしたが、在メキシコ日本大使館や日墨会館等の現地関係機関の皆様の献身的な支えにより、救助活動を精一杯やり遂げることができました。入庁時に思い描いていたスケールの大きな仕事に携わることができ、幸福感でいっぱいです。



メキシコ合衆国外務大臣激励

平常時 消防対応業務

災害時の情報伝達体制の
充実・強化を図る

地震や豪雨災害等が発生した際、市町村から住民の方々に避難指示等の防災情報を迅速かつ確実に伝達するため、緊急速報メール（エリアメール）、防災行政無線、コミュニティFM放送等の多様な情報伝達

手段が整備・運用されています。このような災害時の情報伝達体制の充実・強化を図ることが現在の私の仕事です。最近、屋外スピーカーからの音声が聞き取りにくい豪雪時などに有効な屋内に設置する戸別受信機の普及促進や、高齢者・障害者・外国人等の情報を受け取りにくい方々を対象とした情報伝達手段の高度化事業（全国7自治体で実施）に力を入れて取り組んでいます。数多くの自治体に実際に足を運び、その地域の方々や関係事業者の方々とは知恵を出し合っており、技術的な議論をすることにやり甲斐を感じる日々です。



宇和島市での実証検証

